

# 世界のウチナンチュを通じた 平和啓発交流

## ＝ 沖縄移民の歴史と戦争

今年は戦後80年、海外に渡った沖縄移民の歴史には、戦争の影響と平和の想いが深く関係しています。今からさかのぼること125年前、人口増加など社会的要因による生活困窮から脱するために、海外にその活路を見出したウチナンチュたち。先人たちは、生活や文化の異なる移民先国で、数々の苦難や辛い体験を乗り越えて、故郷の家族のために懸命に働きました。第二次世界大戦等の影響により、自らが過酷な状況にある中でも、沖縄戦での悲惨な時期にいち早く救援物資を沖縄へ送りました。母県沖縄の戦後復興で、世界各地のウチナンチュから温かい手が差しのべられたことを、私たち県民は決して忘れてはなりません。

## ＝ シンポジウム開催と 周知に向けた取組

県では、海外へ移民した先人たちが戦前・戦中・戦後に経験した差別、強制収容、財産没収といった苦難の歴史、そして戦後復興における救援物資の輸送などを通じた活躍の歴史を振り返り、未来の平和を考えるためのシンポジウムを開催しました。

また、過去の大戦と沖縄移民の関係

性という観点から、平和を希求する「沖縄のこころ」を発信することを目的に、沖縄移民の歴史と世界に広がるウチナーネットワークの概要についてわかりやすく学ぶことができるスクリーンバナーおよびリーフレットを制作しました。

スクリーンバナーは、沖縄県立図書館内で展示を行っています。

## ＝ 学生向け平和学習の開催

県内に住む若者が沖縄移民の歴史と戦争の教訓について学び、それらを若者自身のことで次世代に継承していくことを目的として、高校生10名をパラオ共和国に派遣しました。

パラオは戦前に多くの沖縄県民が移民した国の一つで、一時はパラオに住む日本人移民の4割が沖縄からの移民だったとも言われています。太平洋戦争では激戦地となり、戦後はほとんどの日本人移民が強制送還されました。

高校生たちは、博物館視察や県系人へのインタビューなどを通して、移民1世の経験やその子孫の方々の沖縄に対する思いに触れることができました。また戦跡訪問や現地高校生との意見交換を通じて平和について深く考える機会となりました。



ミゼンティ高校の生徒と意見交換をする県内高校生



沖縄移民の歴史から平和を見つめなおすパネル展



問い合わせ

交流推進課

電話：098-866-2479



学校で看護師として働く

医療的ケア児の学校生活を支える看護師

